

オオバシヨリマ *Thelypteris quelpaertensis* (H.Christ) Ching

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 15。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 だが、危機的状況を考慮し、絶滅危惧 I A 類と評価する。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く、斜上または直立し、葉を束生する。葉柄は長さ 20~40cm、わら色で、黄褐色の膜質の鱗片が密につく。葉身は倒披針形、2 回羽状深~全裂、長さ 50~80cm、幅 12~25cm、下部の羽片は次第に著しく短くなり、最下部のものは耳状となる。胞子のう群は裂片の辺縁よりにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 82031, 2004-7-19)、2 豊根 (村松 15640, 1994-7-31)、6 設楽西部 (芹沢 83169, 2008-9-6)。各 1 カ所に、少数株が生育しているだけである。豊根は最近の状況が確認されておらず、集団数から除かれている。

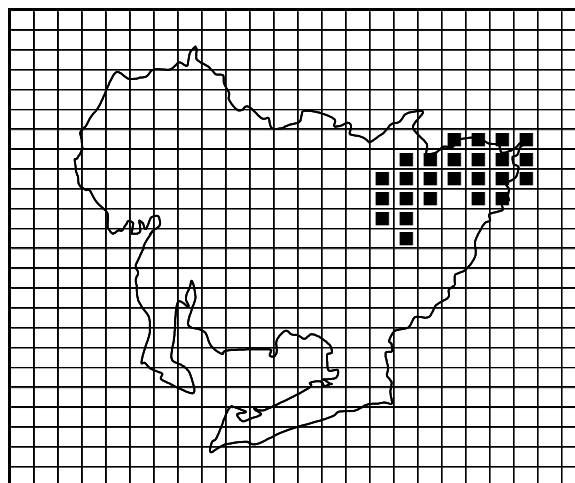
【国内の分布】

北海道、本州、四国の温帯域と屋久島の山地に生育している。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、千島列島、カムチャッカ、アリューシャン列島など。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯林の林床や林縁、湿地などに生育する。愛知県の生育地は、いずれも林内の小湿地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県のは葉長 70cm 程度で、やや小型であるが胞子のう群はよくつけている。道路改修、牧場の拡張などにより湿地が破壊されれば、愛知県では容易に絶滅してしまう植物である。ニホンジカによる食害も懸念される。

【保全上の留意点】

東三河のなだらかな山陵部に点在する小湿地は、拡大造林や牧場造成などにより、詳細な調査が行われないままほとんどが消滅している。現在残存している湿地は、特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

他の日本産ヒメシダ科植物からは、葉柄に鱗片が多いことで容易に区別できる。

【関連文献】

保シダ p.111, 平シダ p.215, 学シダ I p.436.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 666-672. 東京大学出版会, 東京.